

大学生からのメッセージ

「ペットの餌を繁殖して感じること」

北里大学 獣医学部生物環境科学科3年 覃 智月

私はお家で爬虫類や奇蟲を飼育していて、その餌であるゴキブリ、ネズミの繁殖をしている。爬虫類は蛇ではボールパイソン、コーンスネーク、トカゲではヒョウモントカゲモドキ二匹、奇蟲ではタランチュラ3匹飼っている。そこで毎月の餌代を週2回の餌やりで考えると、5千~1万とかかってしまう。そこで私は餌代を節約するため、より良い餌をペットに与えられるため、自分で繁殖して増やそうと思った。

まず始めたのがゴキブリの繁殖です。ゴキブリは居れば勝手に増えるイメージがあるが、増やそうと思うと意外と工夫が必要になった。

ゴキブリ繁殖の前に、ゴキブリが死んでいく問題にあたった。床材に水が染み込んで床材がカビ、ゴキブリが水入れに落ちて溺れて死んでいたのだ。解決法に悩み、友達で同じく繁殖をやっている子に相談した。そこで水入れを改善してみた。小さいタッパーの蓋に切り込みをいれ、そこに布を通す、そうしてタッパーに水をいれると、ゴキブリが布から水を飲んでくれて溺れることも、床材がカビることもなくなった。

水問題も解決したあと、餌問題にあった。市場にゴキブリの餌があまり売られていなかったのだ。家庭ごみとして出てくる野菜のカスは床材がかびてしまうし、動物性タンパク質が足りない、昆虫ゼリーは良いが、原価が高い。ゴキブリの栄養状態はそのまま餌となり、ペットの体調に影響するのでなかなか手を抜けない、そこで亀の餌が一番よい選択になった。色々大変だったが、ゴキブリの繁殖は無事成功したのだ。

次に始めたのがネズミの繁殖です。ネズミはネズミ用の餌、水入れが必要で、初期費用がかかった。

最初に飼育を試した種類はヤワゲネズミという種類だった。ヤワゲネズミはボールパイソンの原産地に生息しているネズミで、ボールパイソンの餌に丁度よいと思った。しかし結論から言うと、それは失敗に終わった。子ネズミは生まれたが、母ネズミと一緒に隔離したせいなのか、メスが子を全て食べてしまったのである。

次に試したのはカラーマウスという、よく見る実験ネズミのような種類を使った。メスを2、3匹、オスを1匹用意し飼育を始めた。そうして生まれてきた9匹は無事に育った。生まれてきた子の世話は母ネズミだけでなく、ケージにいた他の子達も協力していたので、母ネズミのストレスを減らせていた。

まだまだ繁殖成功とは言えないが、これからも模索して繁殖して行きたいと思う。ネズミを餌にするとき、ゴキブリと大きな違いがある。ゴキブリはそのまま与えることができるが、ネズミを与える際、締める必要性がある、生きたネズミは反撃して蛇を傷つけることがあるからだ。自分で育てたネズミを自分で締めることは結構心の準備が必要で、最初はほんとに心がドキドキした。

蛇の飼育において餌の自家繁殖は予想外のメリットもあった。私の飼っているボールパイソンも半年に渡る拒食をしていた。そこで冷凍ネズミではなく、新鮮なネズミを与えたら無事食べてくれたのだ。自分のペットによりよい選択肢を与えることができた。

生き物を生かすときには、必ず他の命が消える。そのことを強く感じることもできた。みなさんも自分のペットの餌を用意してみてもいいかもしれません。

□ 湖北の農業水利システム(滋賀県長浜市)



余呉湖補給揚水機場

ここから賤ヶ岳を横断する2本の送水路で53m高い余呉湖に補給しています

この水利システムは、農業用水の確保にかけた先人のまさに大構想により整備されたものであり、全国的にも例のない独創的な水利システムを形成しています。



神秘的な佇まいの余呉湖

賤ヶ岳古戦場にある展望台から一望できます
天女の羽衣伝説が伝わる余呉湖ですが、現在は治水・水利に大きな役割を果たしており、冬期にはワカサギ釣りでも賑わいます



余呉川頭首工(左)と高時川頭首工への補給導水路(右)

余呉川の河川水に余呉湖から補給し頭首工で取水、さらに開水路とトンネルにより高時川頭首工に補給しています

滋賀県の湖北地域は古くから稲作農業が発達し、条里制による区画整理や、戦国大名の浅井氏等による水利開発が行われてきました。しかし、その水源である河川は流域が少なく地形も扇状地形で用水の地下浸透が甚だしいことから、頻繁に用水不足が生じ水争いの絶えない地域でした。

そこで、国営土地改良事業湖北地区(S40～S61)により主要水源である余呉川、高時川、草野川に頭首工を建設するとともに、地域の最上流部に位置する余呉湖を活用して琵琶湖から用水を補給し、さらにそこから3頭首工の水源に補給するという一大事業が実施され、ようやく水不足が解消されました。

その後、新たな用水需要や環境用水の確保に対応するために国営新湖北地区(H8～H21)が実施され、現在に至っています。

こうした水利開発の歴史だけでなく、当地域には賤ヶ岳古戦場や姉川合戦古戦場、浅井長政の小谷城址など、戦国の歴史遺構が多く残っています。

また、古くから観音信仰の盛んな地域であり、高月町渡岸寺の国宝「十一面観世音菩薩像」をはじめ多くの観音像が残っており、観音の里としても有名です。



賤ヶ岳古戦場顕彰碑

山頂展望台にあり麓から観光リフトで行くことができます



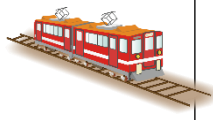
ふなずし

滋賀県独自のニゴロブナのなれずしで、日本酒によくあう絶品です
出典:農林水産省Webサイトの写真を加工

今年(2024年)3月には北陸新幹線が敦賀まで開業し、東海道新幹線米原駅からの南からのアクセスに加えて北からのアクセスがよくなりました。この機会に、**湖北の水利開発の歴史と戦国の歴史を探訪してみませんか。**

アクセス等

敦賀駅 → 余呉駅または木ノ本駅 20～25分
米原駅 → 木ノ本駅または余呉駅 25～30分
それぞれの駅にレンタサイクルがあります



※施設見学は湖北土地改良区にお問い合わせ下さい

農業土木技術—プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術—プロの仕事」。今回は河川を横断するダブルサイホン工の水理模型実験、水理現象解析等の事例をご紹介します。

1. 模型実験と水理現象の検証

ダブルサイホン施設で、分流水槽と合流水槽の渦による損失水頭の増加が確認されました。これを検証するため、1/10の縮尺で模型実験を行い、水理現象を解析しました。



写真.1 模型全体写真と水理模型実験の様子

2. 検証実験の視点

バイパス管の分流地点や段差のある部分では、急な形状変化による複雑な流れ(剥離や逆流域を伴う遷移流)が発生します。

また断面形状が急に狭くなる部分や段上がり部でも流れが複雑になり、有効流積の減少などが発生します。実験では、これら水理現象の検証を行いました。

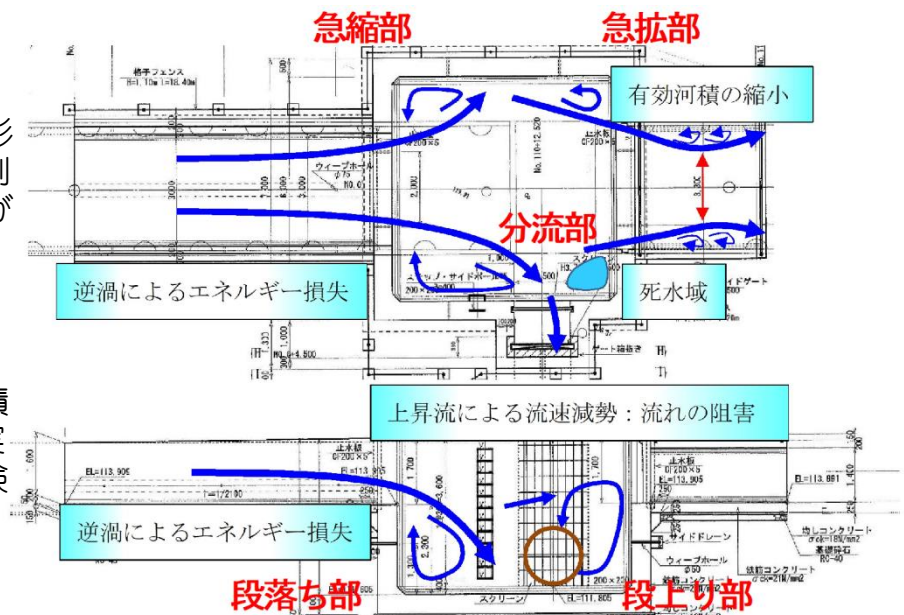
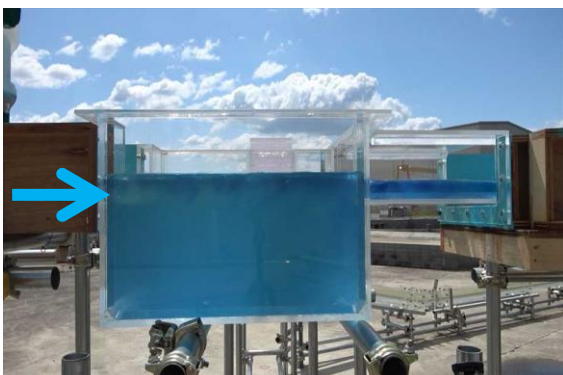


図.1 ①地点:呑口水槽流況

3. 模型実験の状況

水理模型実験の動画は以下にご紹介していますので、ぜひご覧ください！

https://youtu.be/xDYi_V8nXOE



■「農業農村を応援する大学生サークル」代表者会議を開催しました。

会議の目的は、各サークル間の情報交換と交流の推進で、

①琉球大学おきなわ食・農研究会、②静岡大学棚田研究会、③信州大学むらづくり応援隊、④千葉大学援農お宝は発掘隊、⑤東京大学東大むら塾、⑥明治大学楽農4Hクラブ、⑦名城大学地域共創隊WITH、⑧北里大学北里農援隊、⑨神戸大学地域おこしサークル水芭蕉の9大学のサークルが参加しました。

なお、この他石川県立大学学生援農隊あぐりと新潟大学むらづくり研究会が参加の予定でした。昼の部の情報交換会では、各サークルが活動状況について発表し、意見交換が行われました。

農村地域への移動経費の負担の在り方や新規部員の確保方法等各サークルの活動に当たっての課題について情報交換が行われました。また、「食料・農業・農村の課題と政策」というテーマで元農林水産大臣政務官の宮崎雅夫参議員による講演も行われました。

夜の部の交流会では、2時間飲み放題のお酒も手伝って、各サークルの代表者間のコミュニケーションが進み、アドレス交換をする等親密度が増しました。今後、各大学サークル間の交流が進むことが期待されます。なお、各大学のサークルの発表内容は下記のアドレスからご覧になれます。

[⇒各サークルの発表資料](#)



■トーキョーマイフレンズ2024[東京米友達]に大学生が参加しました。

このイベント(主催:NPO法人英田上山棚田団(岡山県美作市))は、お腹いっぱい棚田米を食べてもらうことが開催趣旨です。東京大学むら塾、明治大学楽農4Hクラブの部員も参加しました。

当協会はイベントの準備、運営のお手伝い及び美味しくごはんが炊ける炊飯器購入の助成をしました。



「農業農村を応援する大学生サークル」の活動紹介

■名城大学 地域共創隊WITH

地域共創隊WITHは、地域おこしのボランティアや勉強会などを通して、「地域活性化のために私たちができることは何か」をメンバーと考え合い、学びを活かした実践に取り組むサークルです。団体名は、地域の方々と”一緒に”地域活性化に取り組むことを大切にしたいという思いから付けられました。



私たちのサークルは2023年度に結成され、そのきっかけは愛知県岡崎市の中山間地域(愛称:オクオカ)での学生ボランティア募集でした。オクオカは岡崎市の6割以上の面積を占めており、岡崎市の生活用水の主要な水源であり、自然災害を防ぐ役割も担っております。そのため、オクオカの持続的な発展は岡崎市全体の発展には欠かせません。オクオカの関係人口の創出の取り組みに、私たちはボランティア参加しております。



(上:オクオカの農林に触れ、体験できるイベントで学生ブースを企画。手形の素はオクオカの竹を粉状にしたもの。左下:茶摘み体験イベントのお手伝い。私自身も茶摘み体験をさせていただきました。右下:登山ルートを示す看板設置ボランティア。)

今年度より、ボランティアの参加に加え、サークル独自で勉強会や意見交流をする週1の定例会を始めました。今年度前期の学習テーマは「関係人口」です。地域活性化に携わっている大学の先輩をお呼びしてトークセッションを開いたり、本を利用した勉強会などを実施してきました。定例会の学びはボランティア活動での心構えとして活かせると考えます。

WITHは結成2年目のサークルであり、今年度はサークルの活動方法確立に向けて試行錯誤しております。これまでのボランティア活動と定例会の経験を活かし、大学祭などで学びや考えを発信したりWITHが主体となってイベントの企画をしてみたり、様々なことに挑戦する1年になりそうです。



農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

□日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。

<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

[発行・お問合せ先等] 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里

Tel:03-6459-0324 Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者(大学生等)参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。